

目黒哲也 通信

市政について皆様の声をぜひお聞かせください!



●発行人 目黒哲也

所属委員会 ・ 社会厚生委員会 委員長 ・ 議会運営委員会 ・ 議会広報編集特別委員会 ・ 都市計画審議会 ・ 新潟県後期高齢者医療広域連合議会議員 ・ 魚沼地域特別養護老人ホーム組合議会議員

●連絡先 目黒哲也後援会事務所

〒949-6612 新潟県南魚沼市東泉田 1076-1 TEL 025-773-6253
携帯 090-4011-7563 E-mail kinseikan.tetsuya430623@gmail.com

目黒哲也
公式ホームページ
こちらから➡



目黒哲也通信のバックナンバーを希望される方は、メールあるいは電話にてお気軽にご連絡ください。

新年のご挨拶

皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと存じます。日頃から市政へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。本年は、十二支でいうと「卯年」、十干では「癸」となり、干支は「癸卯」となるそうで、物事の終わりと始まりを意味する他、兎には

跳ねる特徴があるため、飛躍するという象徴になります。さらに、たくさんの子を産むことから豊穡、子孫繁栄のシンボルになっており、縁起の良い年といえそうです。

4年にも及ぶ新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの生活に大きな影響を与えてきましたが、「癸卯」の本年は、感染状況が好転し、コロナからの回復の兆しが見え、景気が上向きに跳ねて、経済が大きく「飛躍」し、私たちの生活が大きく「向上」し、大きく「繁栄」するような明るい世界が広がっていく年になって欲しいものと願っております。

本年も市の益々の発展と住民福祉の更なる向上にむけて勇猛精進して参ります。

皆様にとりまして、この1年が幸多き年となりますようお祈り申し上げます。



12月定例会において下記の一般質問を行い、皆様のお声を市政にお届けいたしました。

◎質問と答弁は以下の通りです。(一部抜粋)

南魚沼市議会 録画配信

検索

右の二次元コードをスマートフォンなどで読み取ると、一般質問の録画映像がご覧になれます。



一般質問 脱炭素社会の構築と環境施策の推進を加速すべき時と考えるが

市長答弁 今、世界最大の課題であり、まさに危機感を持って臨まなければならない。私ども大人が、責任感を持って取り組まなければならないものと考えている



小泉進次郎元環境大臣（雪シンポジウムにて）

目黒 具体的には、どのように脱炭素社会の構築と環境施策の推進を考えているのか。

市長 総合計画の中で、省エネルギーの推進、新エネルギーへの転換を基本施策に掲げて今、取り組んでいる。難しい目標であることは十分認識しているが、できる取り組みから実践して、効果を確認しながら取り組みを推進していく必要がある。

目黒 市長が考える市の自然を活かした再生可能エネルギーの主要資源は。

市長 この地域は、森林資源。森林には二酸化炭素の吸収、また、木質バイオマス資源など大いに可能性がある。そのために、ふるさと里山整備再生整備事業に今年踏み出した。来年度も継続し、ピッチを上げて、様々な業態の皆さんと取り組んでいく体制を作りたい。これは、雇用にも波及していくものと思っている。

目黒 先に市民会館で開催された雪シンポジウムでは、小泉進次郎元環境大臣から環境と経済が一つになる時代であると述べられていた。カーボンニュートラルや脱炭素を意識し始めて、時代がきちんと雪に目を向けるようになったことを確信した。

雪資源は当地域の主要な資源と考える。そこで今後、雪室の導入を推進していく構想は。

市長 現在12棟目が建設されており、雪室の仕組みは、でき上がってきている。今後は、医療福祉において展開出来ないか考えている。

目黒 雪冷房を一般住宅において実用化する構想は。

市長 新健診施設に雪冷房を導入する予定である。一般住宅の実用化は、建築、ハウジング業者等と組んで、一緒に研究していきたい。

目黒 下水道資源も重要である。以前、一般質問での回答で「汚泥から発生するメタンガスの利用や肥料化をして、循環社会に向けて方向をとっていく」と述べられたが、その後の取り組みは。

市長 令和5年度からは、87%が農業用飼料、残りの13%がセメント原料として100%再利用ができる状況になってきている。

目黒 汚泥のバイオマス化を促進するためにはディスポーザーの導入促進を図る必要がある。以前の一般質問の回答では、「ディスポーザー導入に向けて政策化していく」と述べられたが、その後の取り組みは。

市長 下水道事業に関して県は積極性がない。私自身も高い設置率になった場合の下水道への影響を危惧している。

目黒 令和2年11月と令和3年1月に実施した使用済紙おむつの実証実験の検証は。

下水道課長 使用済紙おむつを脱水後、粉碎して、再利用を図る実証実験であった。介護施設の職員からは、手間がかかる作業が発生するため評判が良くなかった。国はトーンダウンし、早期の普及を図る前に、ガイドラインを作っ

てから進めると方向転換をした状況である。

目黒 その報告を受け、今後、市としてのアプローチは。

市長 引き続き、研究に値するものであると考えている。

目黒 紙おむつメーカーのユニ・チャームでは、使用済紙おむつからパルプを取り出し、衛生的なパルプに戻し、これを原料の一部にして紙おむつを製造し、令和5年度から本格的に介護施設や病院向けに販売を開始する予定である。現在は1か所であるパルプ再生工場を30年度までに10か所以上に広げる目標である。再生工場の誘致に動いたらどうか。

市長 興味があるので、情報を収集してみたい。

目黒 脱炭素社会の構築と環境施策の推進は、国、県、企業、団体、市民等あらゆる方々が一体となって取り組まなければ実現が出来ない。加えてスピードを持って研究、調査、展開をしていく必要がある。そのためには、専門部署を創設する必要があるのでは。

市長 現在、マンパワー不足という大きな課題がある。コロナの影響もあるが、合併時に職員を絞り過ぎた影響が今、出てきた。部署の増設は限界である。コロナ対応で職員は疲弊感があるが、奮い立ってもらい、知恵を絞りながら取り組んでいかなきゃならんとも思っている。



めぐろの目め

キーワード⑳ 脱炭素社会の構築と環境施策の推進

近年、世界的に地球温暖化に起因すると考えられる異常気象やそれに伴う災害が頻発しており、市でも、気温の上昇や極端な大雨・大雪、台風等による自然災害など、大きな影響を受けている。

こういった状況に対応するため、世界中でSDGsが提唱され、「持続可能な希望ある未来」の実現を目指し、国のみならず、国民や企業、団体、市町村など多様な主体が、SDGsの理念と軸を一つにして取り組んでいる。

市の自然を生かした雪・水・森林などの再生可能エネルギーの活用や下水道資源の利活用、そしてスマート農業・スマート林業の推進等々、脱炭素社会の構築と環境施策の推進を加速すべき時と考える。

再生可能エネルギーの活用や下水道資源の利活用については、バックナンバー

●目黒通信Vol.4 めぐろの目キーワード③

「地域エネルギーの自給」

●目黒通信Vol.12 めぐろの目キーワード⑪

「再生可能エネルギーでの循環型社会」

に詳細に掲載してありますのでご覧ください。

(1)雪の産業化を進めていくべきである。

⇒「雪室の促進と雪冷房」を。

①「雪室の促進」

⇒雪室建設に対する助成金等制度の設置。

②「雪冷房」

⇒公共施設への導入・住宅での導入促進に向けて助成金等制度の設置。

③「実証実験チームの創設」

青森市浪岡では、閉校になった小学校のプールを利用し、積雪発電を試みている。プールに

断熱シートを敷き詰め、雪を蓄積し、蓄積した雪と外気との温度差を利用して作った蒸気で、タービンを回し発電する実証実験を令和4年12月から実施している。発電効率は太陽光発電に匹敵するとみており、発電技術の確立を目指している。

当市でも国を巻き込んで雪の産業化に向けて実証実験を進めていくべきである。

(2)下水道資源の利活用を促進すべきである。

下水道汚泥⇒メタン発酵⇒バイオガス⇒発電。現在、六日町浄化センターの電気量の約1/2を賅っている。

またCO₂フリー水素への製造も可能であるため注目されている。

①ディスポーザー普及促進をすべきである⇒「設置助成金等制度の設置」

市内の各家庭から、ごみステーションに出される可燃ごみの総量は、年間約8,400t。

ごみの減量化の推進に向けて実施している家庭ごみ内容物調査によると、家庭から排出される可燃ごみのうち約44%が「生ごみ」で、重量にすると約3,700tと推計。(令和3年度調査結果)

「生ごみ」の約80%は水分であると推計されており、約3,000tの水分を焼却していることになる。(図1)

水分の多い生ごみは、焼却するとき余分なエネルギーを必要とし、特に燃料費などの処理経費、焼却炉への負担・修繕費も多くかかってしまう。また、生ごみの水分は、腐敗や悪臭の主な原因にもなる。

新ごみ処理施設建設に着手する今こそディスポーザーの普及を図るべきである。

図1 市内の各家庭から出される可燃ごみ(令和3年度)



「生ごみ」の約80%は水分

②使用済み紙おむつのリサイクルへ取り組むべきである。

環境省によると、全国の紙おむつゴミ(子ども用も含む)は、2015年度の200万t前後から、30年度には250万t前後に増える見通しである。焼却処理は、水分が含んで燃えにくいいため、重油など助燃材のコストや、傷みやすくなる炉の修繕費などの負担が課題となっている。

【北海道幌延町】

リサイクル施設は周辺5町の介護施設や病院など16施設の紙おむつを受入れている。

紙おむつを破碎、乾燥して滅菌した後に、木くずと混ぜ合わせ、固形燃料を製造。固形燃料は、町内の特別老人ホームの風呂の湯などを沸かすボイラーの燃料に使われている。年11万tの重油を使っていたが、2021年度は、2万2000tと5分の1まで削減効果があった。

持ち込まれるごみの2割近くを占めていた紙おむつゴミを減らすことで、現在の処理場の耐用期間を延ばし、新設予定の処理場のコンパクト化で整備費の抑制につなげる。今後は、固形燃料の有料化を考えている。

【東京都国立市】

介護老人保健施設「国立あおやぎ苑」では、燃やさず800度の高温で分解・炭化させる「炭化炉」を導入。残った粉はコンクリートの材料などとして活用される。

③除草時の枯草や前提枝葉等を汚泥と一緒にメタン発酵させる方法も研究されている。実証実験を進めていくべきである。

(3)再生可能エネルギー施策を推進する専門部署を創設すべきである。

再生可能エネルギー施策は、国、県、市民、企業、団体、あらゆる方々が一体となって取り組まなくては実現が出来ない。バイオマス分野の産官学金の連携を確立して進めていくべきである。「やれるか」「やれないか」ではなく、「どうやって進めるか」である。「やれることをやっていく」ではなく、「やるべきことをやっていく」べきではないかと考える。

活動報告

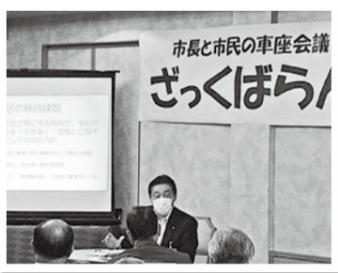
ここ最近の目黒哲也の活動の一部を紹介いたします。見かけたらお気軽にお声かけをお願いいたします。



小泉進次郎代議士とのツーショット



六日町小学校創立150周年記念式典 実行委員長式辞



市長と市民の車座会議「ざっくばらん」六日町地区



世界最大級の首都圏外郭放水路視察



大源太川第1号砂防堤防の現地視察と講演会



第7回南魚沼市グルメライド朝食エイドできりざい丼を参加者に提供



講演会 杉村太蔵氏「人生何が起こるか わからない」



南魚沼圏域障がい者就労支援地域連携推進会キックオフセミナーを発起人として開催



羽吹唯人君激励会



病院改革を見事に成し遂げた三浦市立病院視察 小澤総病院長



講演会 小高直弘氏「観光状況と一般常識」